

Plan 2

快適にくらす

- 施策6 ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します
- 施策7 地球温暖化防止に取り組みます
- 施策8 環境教育を推進します
- 施策9 水と緑を活かしたまちをつくります
- 施策10 良好な生活環境を確保します
- 施策11 総合的な住宅対策に取り組みます
- 施策12 公共交通網の整備を進めます
- 施策13 歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します



施策 6

ごみを適正に処理し資源のリサイクルを推進します

現状と課題

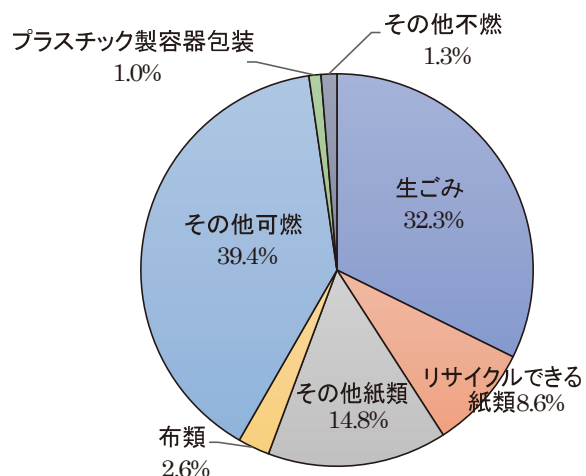
【現状】

- 令和4年10月に、ごみ出し辞典の改訂を行い全戸配付するとともに、新しいごみ分別アプリを導入し、ごみ出しルールおよび分別の方法の周知啓発を行っています。また、食品ロスの削減に取り組む飲食店などを登録する「いちのみや食べきり協力店」制度を実施しています。
- 資源のリサイクルの推進を図るため、平成25年7月から回収ボックスによる小型家電回収に取り組んでいます。また令和4年4月から使用済み家庭用インクカートリッジの回収・リサイクルを業者との業務協定の締結により開始しました。
- 平成25年3月にリサイクルセンターが稼動し、平成30年3月に焼却施設の基幹的設備改良を完了したことで、ごみ処理施設の安定稼動が図られています。
- ごみの減量を進めることで、市内の最終処分場の延命化を図っています。

【課題】

- 市民にごみと資源の分別や処理の状況を周知し、市民一人一人のごみ排出マナーやリサイクル意識のより一層の向上を図る必要があります。
- 効率的なごみ処理と資源化を進め、最終処分場の延命化を図る必要があります。
- ごみ焼却施設の老朽化に伴う新たな施設整備にあたり、稲沢市と共同で進める必要があります。

■可燃ごみ組成調査



資料：一宮市（令和3年12月）



小型家電・インクカートリッジ回収ボックス



関連するSDGs



事業展開の方向性

●ごみの排出マナー・減量意識の向上

ごみ減量啓発事業、ごみ減量モニター事業

●ごみの適正かつ効率的な処理

可燃ごみ収集事業、不燃ごみ収集事業、粗大ごみ収集事業、焼却施設運転管理事業、リサイクルセンター運転管理事業

●資源のリサイクルの推進

資源回収事業、空き缶・金属類リサイクル事業、プラスチック製容器包装リサイクル事業、ペットボトルリサイクル事業、小型家電リサイクル事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|---------------------|-------|-------|
| ①市民一人あたりの一日分のごみの排出量 | 823g | 790g |
| ②ごみのリサイクル率 | 14.0% | 16.0% |
| ③最終処分場の利用可能残余年数 | 8年0ヶ月 | 3年0ヶ月 |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|------------------------------|-------|
| ごみの適正な分別やリサイクルが行われていると思う人の割合 | 78.1% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

○一般廃棄物処理基本計画

用語説明

○4R：次の4つのRの総称のこと。

Refuse（リフューズ）：不要なものは断る

Reduce（リデュース）：ごみを減らす

Reuse（リユース）：再利用する

Recycle（リサイクル）：資源として再生して利用
する

市民が考えた

「私たちにできること」



- 4Rを心がける
- ゴミを適正に分別し、ゴミ出しマナーを守る

施策 7

地球温暖化防止に取り組みます

現状と課題

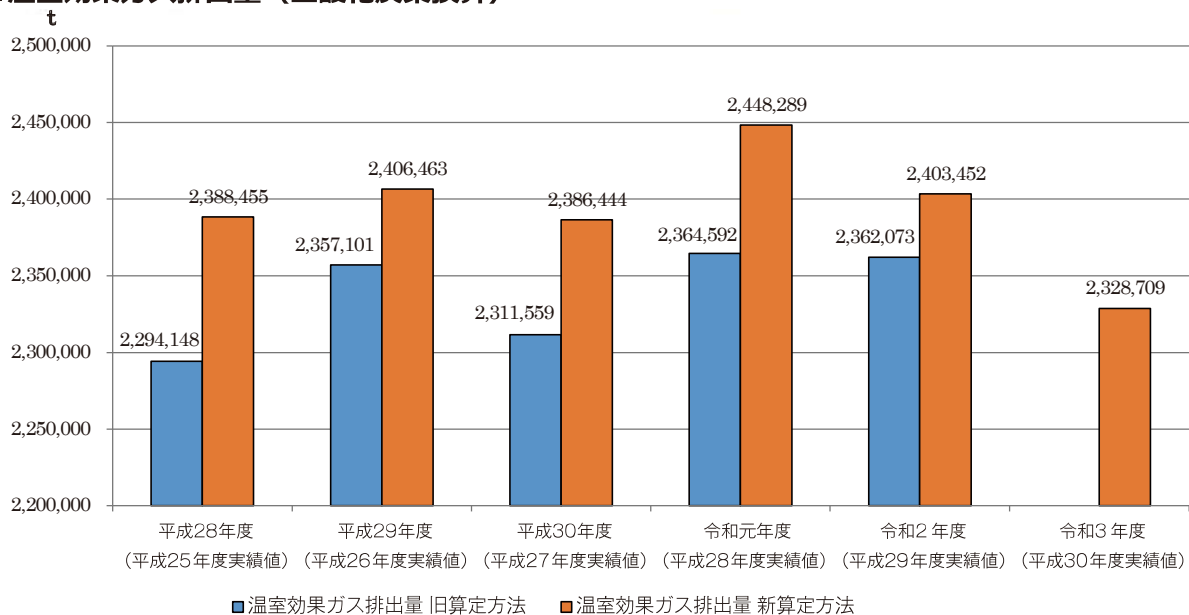
【現状】

- 地球温暖化の主な原因は、人為的な温室効果ガスの排出量の増加であるとされています。
- 国は地球温暖化対策として、令和12年度までに平成25年度比46%の温室効果ガス削減を目標としています。また、カーボンニュートラル宣言を行っており、令和32年度には温室効果ガスの排出を全体としてゼロとすることを目指しています。
- 一宮市では環境センターや市内の再生可能エネルギー電源などで作られた電気を公共施設に供給することで、市内の二酸化炭素排出量の削減を図るため、地域新電力会社を令和5年1月に設立しました。

【課題】

- 地球にやさしいライフスタイルを選択することが必要であり、環境に対する意識や行動の促進が求められています。
- 化石燃料の消費を抑えた「脱炭素社会」を実現するためには、市民、事業者、市が一体となって取り組む必要があります。
- 令和2年3月に策定した「いちのみや気候変動対策アクションプラン2030」の推進を図り、温暖化防止対策に取り組んでいく必要があります。

■ 温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）



※令和2年3月の一宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定に伴い温室効果ガス排出量の算定方法が変更になったため、新旧の温室効果ガス排出量を計上

資料：一宮市

関連するSDGs



事業展開の方向性

●低炭素なまちづくりおよびスマートシティの推進

温室効果ガス排出量の削減事業、地球温暖化対策設備導入促進補助事業、公共交通利用促進事業、公園・緑地整備事業、入学記念樹配付事業、民有地緑化推進補助事業、緑化推進啓発事業

●地球にやさしいライフスタイルの選択

環境学習事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|---------------------|-------------|-------------|
| ①温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算） | 2,328,709 t | 1,761,960 t |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|--------------------------------|-------|
| 地球温暖化防止に対する意識が市民に浸透していると思う人の割合 | 19.7% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

○いちのみや気候変動対策アクションプラン2030

用語説明

○温室効果ガス

地表から放出される熱の一部を吸収し地球を温室のように暖める効果をもたらす気体で、二酸化炭素、メタンなどがある。

○化石燃料

動物や植物の死骸が地中に堆積し変成してできた燃料で、主に石炭、石油がある。

○脱炭素社会

温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめることを目指す社会のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- できるだけ車を使わず、公共交通機関や自転車を使う
- エアコンの設定温度を控えめにするなど、電気やガスの使用を少なくする
- 植樹活動をする

施策 8

環境教育を推進します

現状と課題

【現状】

- 地球温暖化や自然環境破壊などが世界規模で深刻化しています。
- 豊かな自然環境を守り、次世代に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用など、環境への負荷が少ない持続可能な社会を構築することが大切です。
- 環境問題に関心を持ち、その責任と役割を理解した環境保全活動に参加できる人材の育成が求められています。
- 子どもから大人まで、各世代にわたり環境問題に関心を持ってもらうことが重要です。

【課題】

- 環境に関する情報を収集・提供し、市民意識の向上を図る必要があります。
- 環境問題を学習できる機会や活動の場を提供することが必要です。
- 次世代を担う環境活動リーダーの育成のためのプログラムの充実が求められています。

■環境学習講座の開催回数および参加者数

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 回数 | 68回 | 72回 | 59回 | 38回 | 55回 |
| 参加者数 | 2,523人 | 2,783人 | 3,161人 | 1,109人 | 1,990人 |

資料：一宮市



一宮市環境学習講座

関連するSDGs



事業展開の方向性

●環境学習の機会の提供

環境学習事業、エコハウス 1 3 8 環境学習事業

●環境意識の向上

環境情報発信啓発事業

●次世代リーダーの育成

エコスクール運動推進事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|----------------------|-------|-------|
| ①環境に関する講座などの開催回数 | 55回 | 80回 |
| ②エコスクール運動参加者の環境意識向上度 | 89.1% | 92.0% |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|-----------------------------|-------|
| 環境問題を学習したり講座等を受講したことがある人の割合 | 19.8% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

○第2次一宮市環境基本計画

用語説明

○エコスクール運動

環境にやさしい学校づくりのため、児童・生徒が自ら計画を立てて実行する事業のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 自然素材のものをを使う
- 家庭や地域で自然や環境について考える
- 環境学習ができる機会があれば参加する

施策9

水と緑を活かしたまちをつくります

現状と課題

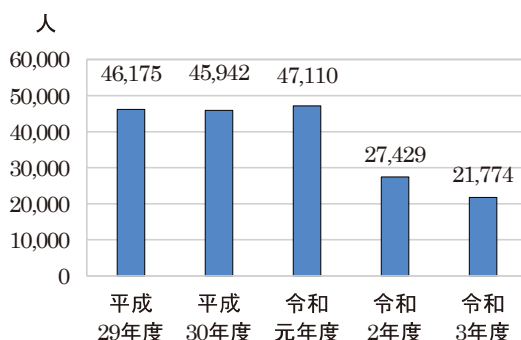
【現状】

- 本市は、約18kmにわたって木曽川に接しており、この河川敷を利用した公園や自転車道・遊歩道の整備を近隣市町とともに進めています。
- 市内には木曽川から派生した河川や用排水路などの水辺空間があり、これらに沿って集落が分布しています。
- 都市公園は、これまで土地区画整理事業などにより公園用地を確保し整備しており、現在施行中の外崎地区以外には、新たな土地区画整理事業が予定されていないため、用地確保が難しい状況になっています。
- 市街化調整区域において宅地化が進み、田畑が減少しています。
- 緑地の保全と緑化の推進を図るための条例を策定し、緑豊かな都市環境の形成を進めています。

【課題】

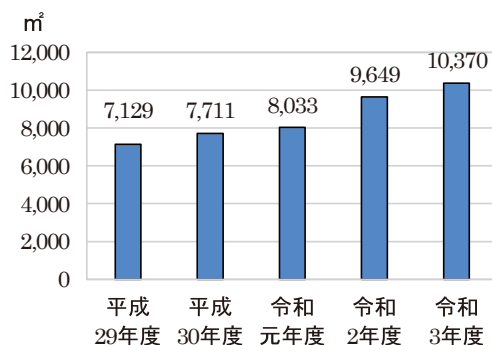
- 木曽川の豊かな自然や中小河川など、身近に存在する水と緑のオープンスペースを活用した、魅力ある水辺空間の創出が求められています。
- 安全かつ安心して利用できる都市公園の整備の推進、施設更新が必要です。
- 水と緑のネットワークを形成するとともに、民有地の緑化を一層推進する必要があります。
- 緑化活動を行う市民への支援が求められています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの参加者数および施設の利用者数予測については不透明です。
- 農地は自然環境の保全や良好な景観を形成する役割も果たしており、身近な緑として継続的に保全していく必要があります。

■大野極楽寺公園利用者数



※イベント参加者と施設利用者
(バーベキュー場、グラウンドゴルフ、レンタサイクル) の合計

■民有地緑化面積



※一宮市緑化推進事業補助金制度を活用して
整備された緑化面積の累計

資料：一宮市

関連するSDGs



事業展開の方向性

●水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用

公園・緑地整備事業、木曽川河川敷公園整備事業、緑道整備事業、ミズベリング 1 3 8 事業

●民有地の緑化推進

入学記念樹配付事業、民有地緑化推進補助事業、緑化推進啓発事業

●潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進

都市公園・街路樹維持管理事業、市民参加による公園管理事業、
市民ボランティアによる公園花壇管理事業、花いっぱい運動事業、ホタルも生息できる環境創出事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|-------------------------------|----------|----------|
| ①都市公園等面積 | 232.70ha | 245.54ha |
| ②水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数 | 781,300人 | 945,800人 |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|--------------------------|-------|
| 水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合 | 38.3% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市緑の基本計画
- 一宮市公園施設長寿命化計画
- 一宮市景観計画
- 一宮市農業振興地域整備計画

用語説明

- 土地区画整理事業
道路、公園などの公共施設が未整備の市街地で、土地の区画を整えつつ公共施設を整備することにより快適な住環境を創出し、宅地の利用増進を図る事業のこと。
- ミズベリング
水辺に興味を持つ市民・企業・行政が一体となり水辺の賑わいを創り出す活動のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 庭に植物を植えたり、玄関やベランダにプランターを置いたりする
- 雨水升などで雨水の再利用に努める
- ゴミ拾いやプロギング（ジョギングをしながらゴミを拾うこと）など、河川の美化を心がける



木曽川緑地公園

現状と課題

【現状】

- 健康の保護と良好な生活環境の保全のため、大気や河川の水質などを監視し、工場・事業場を検査・指導することにより、公害防止に努めています。
- 雑草の放置、不快害虫の発生、犬猫のふん害など生活環境における苦情が増えてきています。
- 有害鳥獣による農作物被害や生活被害が発生しています。

【課題】

- 良好な生活環境の確保には、市民、事業者、市が一体となって取り組む必要があります。
- 地域の生活環境がより良く保たれるよう、市内河川のモニタリングなどによる監視を行い、公共用水域の水質を保全することが必要です。
- 計画的な公共下水道の整備や合併処理浄化槽の普及が必要です。
- 有害鳥獣による農作物被害や生活被害と、不快害虫の発生に対応する必要があります。

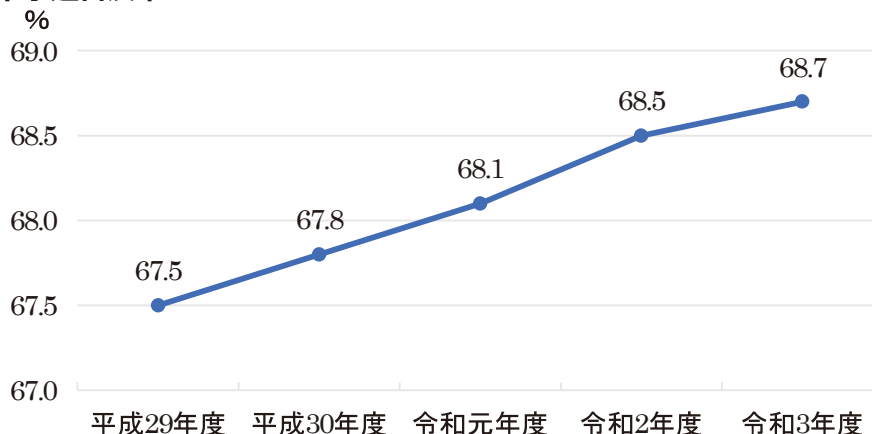
■ 典型7公害の苦情件数

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 受付件数 | 188件 | 130件 | 156件 | 259件 | 211件 |

■ ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数

| | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 参加人数 | 6,693人 | 6,869人 | 3,217人 | 1,371人 | 1,709人 |

■ 下水道普及率



資料：一宮市

関連するSDGs



事業展開の方向性

●良好な生活環境づくり

空き缶等ごみ散乱防止事業、路上喫煙防止事業、公害苦情相談事業、キソガワフユユスリカ対策事業

●公共下水道事業などの推進

合併処理浄化槽設置補助事業、公共下水道整備事業

●有害鳥獣等駆除の充実

不快害虫発生抑制事業、有害鳥獣駆除事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|-------------------|--------|--------|
| ①ポイ捨てごみの清掃活動の参加人数 | 1,709人 | 3,200人 |
| ②典型7公害の苦情件数 | 211件 | 170件 |
| ③下水道普及率 | 68.7% | 70.5% |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|-------------------|-------|
| 生活環境が良好であると思う人の割合 | 58.1% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

- 第2次一宮市環境基本計画
- 一般廃棄物処理基本計画
- 一宮市公共下水道事業計画
- 五条川右岸流域関連一宮市公共下水道事業計画
- 日光川上流流域関連一宮市公共下水道事業計画

用語説明

- 典型7公害
大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の7種類の公害のこと。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 食器を洗う前に油を拭き取るなど、下水処理に負担がかからないようにする
- 野良猫や野鳥にえさを与えないようにする

施策11

総合的な住宅対策に取り組みます

現状と課題

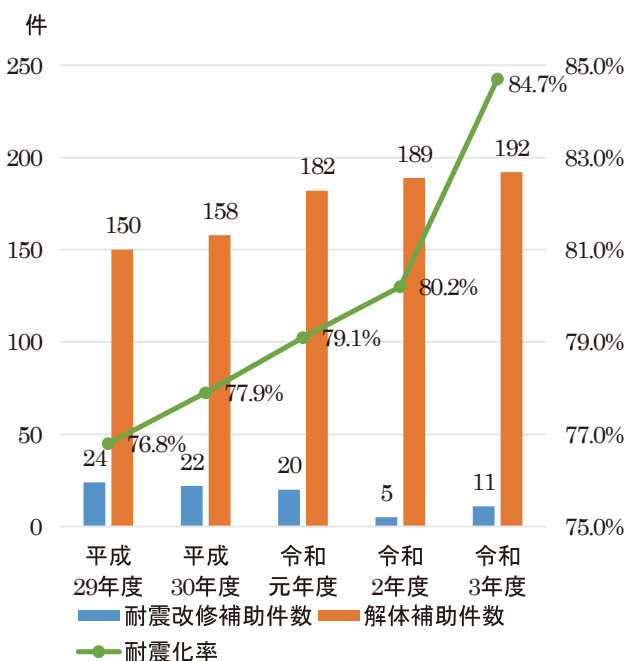
【現状】

- 南海トラフ地震の発生する確率が引き上げられ、大規模地震の危険性の高い地域となったことで、市民の地震災害に対する関心は高まっているものの、費用面から住宅の耐震化の進みが遅れています。
- 空き家などの老朽化により、防災・防犯・衛生面での問題が発生しています。
- 居住地区は、市内のほぼ全域に広がっており、不効率な都市形態になっています。

【課題】

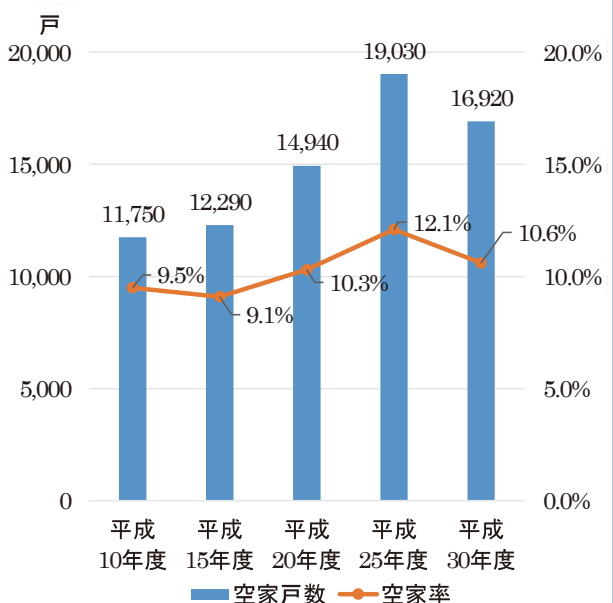
- 平成28年3月18日に閣議決定された住生活基本計画（全国計画）および愛知県住生活基本計画2025に基づき、子育て世帯・高齢者などが安心して暮らすことのできる住生活の実現、既存の住宅などの利活用の推進を図る必要があります。
- 市街地では、都市機能がコンパクトに集積した、歩いて暮らせるまちづくりを推進し、安全・安心で良好な居住環境の創出を図る必要があります。
- 郊外では、コミュニティや生活利便施設を維持するため、各種機能を一定のエリアに集約化する必要があります。

■耐震化率と補助件数の関係



資料：住宅・土地統計調査、固定資産課税台帳

■空家の推移



資料：住宅・土地統計調査

関連するSDGs



事業展開の方向性

●安全・安心に住み続けることのできる住まいづくり

民間木造住宅解体補助事業、民間木造住宅耐震診断事業、民間木造住宅耐震改修補助事業

●空き家等利活用の推進

空き家等対策事業、相続登記啓発事業

●良好な居住環境の創出

コンパクトなまちづくり推進事業、土地区画整理事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|-----------------|-------|-------|
| ①住宅の耐震化率 | 84.7% | 95.0% |
| ②木造住宅解体工事費の補助件数 | 200件 | 200件 |
| ③空き家率 | 10.6% | 10.6% |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|----------------------------|------|
| 住宅の耐震化や空き家対策が行われていると思う人の割合 | 8.7% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

- 一宮市都市計画に関する基本的な方針
(一宮市都市計画マスタープラン)
- 一宮市立地適正化計画
- 一宮市空き家等対策計画
- 一宮市建築物耐震改修促進計画(改定版)

用語説明

- 住生活
住居で営まれる生活のこと。建造物である住宅に対し、そこで営まれる生活を重視する立場から用いられる。

市民が考えた

「私たちにできること」



- 耐震診断や補助を活用して住宅の耐震化を行うとともに、耐震化について地域で伝える
- 空き家の有効活用を考える

施策12

公共交通網の整備を進めます

現状と課題

【現状】

- 本市の公共交通網は、名古屋市と岐阜市を結ぶJR東海道本線および名鉄名古屋本線が市の中央を縦断し、広域移動の幹線交通として機能しています。
- 一宮駅を中心に、名鉄尾西線および名鉄バス・**i**ーバス（一宮コース、千秋町コース、大和町・萩原町コース）が放射状に延び、市域内の拠点および隣接自治体との移動路線となっています。
- 鉄道や路線バスを補完する地域生活交通として、**i**ーバス（尾西北コース、尾西南コース、木曽川・北方コース）を運行しています。
- 個別需要に対しては、時間や場所の制約を受けない、タクシーが運行されています。

【課題】

- 高齢化が進むなか、市民が過度に車に依存することなく暮らすことができる公共交通網や、公共交通を利用しやすい環境の整備に取り組むことが必要です。
- 市内に点在する、公共交通の利用が不便な地域の移動手段を確保するため、地域の実情に合った交通手段の検討・導入について、地域、交通事業者、市が一体となり、取り組んでいく必要があります。

■路線バス利用者数

| 路線 | 利用者数 |
|--------------|------------|
| 一宮駅⇄尾西 | 1,022,364人 |
| 一宮駅⇄尾西（深夜） | 0人 |
| 一宮駅⇄川島 | 320,730人 |
| 一宮駅⇄岩倉駅 | 701,613人 |
| 一宮駅⇄江南駅 | 740,651人 |
| 一宮駅⇄宮田本郷 | 424,950人 |
| 一宮駅⇄宮田本郷（深夜） | 0人 |
| 一宮駅⇄江南団地 | 46,740人 |
| 一宮駅⇄九日市場 | 148,144人 |
| 一宮駅⇄総合体育館 | 99,923人 |
| 一宮駅⇄イオン木曽川 | 64,119人 |
| 計 | 3,569,234人 |

■**i**ーバス利用者数

| コース | 利用者数 |
|------------|----------|
| 一宮コース | 66,861人 |
| 尾西北コース | 16,910人 |
| 尾西南コース | 32,114人 |
| 木曽川・北方コース | 13,145人 |
| 千秋町コース | 35,247人 |
| 大和町・萩原町コース | 34,352人 |
| 計 | 198,629人 |

■市内バス利用者数

| | |
|----|------------|
| 合計 | 3,767,863人 |
|----|------------|

資料：一宮市（令和3年度）

関連するSDGs



事業展開の方向性

●体系的な公共交通の整備

一宮市地域公共交通会議開催事業、iーバス運行事業、バス路線維持対策事業

●公共交通の利用促進

公共交通利用促進事業

●公共交通を支える仕組みの確立

地域ワークショップ開催事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|--------------|---------|---------|
| ①市内バスの年間利用者数 | 3,767千人 | 4,800千人 |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|------------------------|-------|
| 市内の公共交通網が充実していると思う人の割合 | 41.7% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

○一宮市公共交通計画

市民が考えた

「私たちにできること」



- 公共交通機関を利用する
- 子どもに公共交通機関に乗る経験をさせる



歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境を整備します

現状と課題

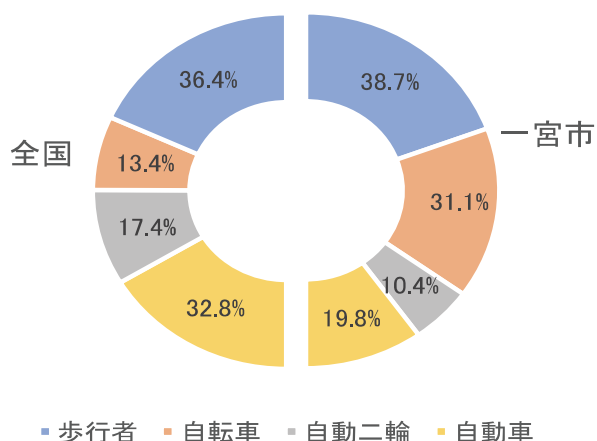
【現状】

- 健康や環境への意識の高まりや新型コロナウイルス感染症の影響により、ウォーキングや自転車を利用する人が増えています。
- 平成28年から令和2年における本市の交通事故による死傷者数は減少しているものの、自転車が関連する事故による死傷者数の割合は横ばいで推移しており、県内平均を上回っています。
- 歩行者および自転車の死亡事故は、過去10年、あまり減っていませんが、交通事故全体に占める割合は、全国で49.8%に対し、本市は69.8%と大きく上回っています。

【課題】

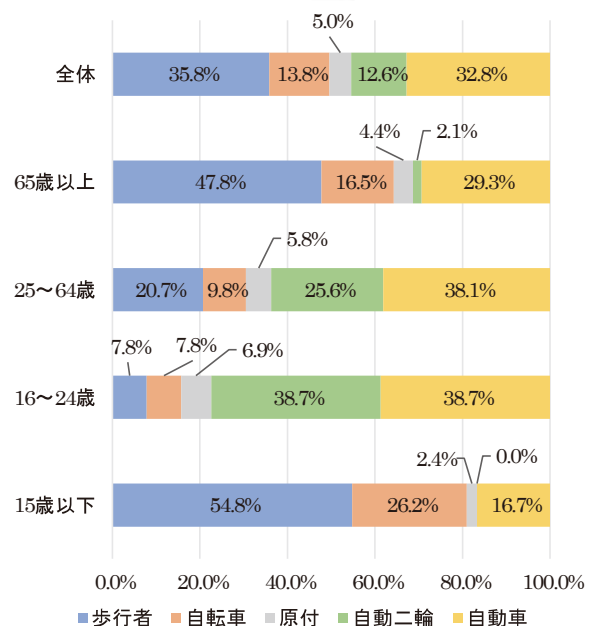
- 子どもや高齢者を事故から守り、誰もが安全に安心して外出できる交通環境の整備を行う必要があります。
- 道路空間構成の適正な再編・整備や安全施設の設置、障害物の撤去、ソフト施策などの総合的な取組を実施していく必要があります。

■交通事故死者の割合（状態別）



資料：警察庁交通局（令和4年3月3日）
第11次一宮市交通安全計画

■交通事故死者の割合（状態・年齢層別）



資料：内閣府交通安全白書（令和4年）



関連するSDGs



事業展開の方向性

●人優先の安全で安心な歩行空間の整備

放置自転車対策事業、通学路安全対策事業

●安全で快適な自転車利用環境の整備

駐輪場管理事業、自転車通行空間整備事業

●危険箇所の減少

交通安全施設整備事業、不法占用物撤去事業

成果指標

| 指標名 | 基準値 | 目標値 |
|-------------------|------|------|
| ①歩行者・自転車関連の交通事故件数 | 404件 | 364件 |

市民の体感指標

| 指標名 | 基準値 |
|-----------------------------|-------|
| 歩行者や自転車が、安心して通行できていると思う人の割合 | 35.5% |

※各指標の算出方法は110から115ページを参照

関連する個別計画

- 第11次一宮市交通安全計画
- 一宮市通学路交通安全プログラム
- 一宮市自転車活用推進計画
- 一宮市無電柱化推進計画

自転車通行空間整備のイメージ
(自転車専用通行帯)



※令和3年度整備箇所(市道0120号線)

市民が考えた

「私たちにできること」



- 危険な場所について、整備や改善を依頼する
- 交通ルールを守り、子どもや高齢者に配慮して通行する

